

## ◇現代社会と青年◇

## 「ライバルは時代」

## 若者教育のこれからは

むろだて いさお  
室館 勲  
（株式会社キャリアコンサルティング）  
代表取締役社長



「室館さん、ライバルは『時代』なんですよ」

年商二百三十億円の米商社、「おくさま印」で有名な幸南食糧株式会社。その創業者であり、昨年、旭日小綬章を受章された川西修会長は、私にそうおっしゃいました。川西会長は約五十年前、二十三歳のときに大阪に米屋を開業します。ライバル店が四十三店舗もある激戦区で、全く売れません。川西青年は考え抜き、共働きが増えていく時代、利便性を高めることに目をつけました。他店は「夕方閉店・土日は休業」という中、思い切って「夜遅くまで・土日も営業」に舵をきり、成功。さらにエレベーターなしの五階建てマンションに「電話一本で五階まで米を運びます」と宣伝し、大成功。そのマンション全戸がお客様になりました。

会社が大きくなってからも時代を読み続けます。お米よりも手間のかからないパンや他の食材がシェアを脅かします。そこで目をつけたのは、米でもより手間のかからない「無洗米」。積極的な販売のための設備投資額は億を超えます。幹部はその投資額の大きさから、全員が反対しました。しかし川西会長は時代を読み、投資を決断します。業界でも早い段階で工場を増設できたことで、見事成功しました。

川西会長に「この先の時代はどうなっていますか」と質問しました。

「ほとんどの家庭から『炊飯器がなくなる』と思っています」という驚きの答え。本来、お米屋さんならそんな未来は描きたくないはず。しかし川西会長は、冷静に時代を読み、それでも多くの方にご飯を食べてもらうにはどうするか、と考え続けているのです。出した答えは、ご飯の加工品です。レンジで温めて食べられる商品、より健康に良いお米の開発などにすでに乗り出し、いまでは加工品は二百三十億円の売上のうち五十億円を占めるそうです。

企業も個人も同じく「ライバルは時代」です。加速度を増すハイテクノロジー、AIの時代、その中で若者の存在感をいかにして高めるか。私は、質の高い若者を「集める」時代から「育てる」時代にシフトしていくだろうと思います。

少子化が進む日本、若者に対する失望も多く聞かれる中、質の高い若者、企業が感動するような若者をいかに育成するかが私たちの世代の課題ではないでしょうか。